

I C T活用工事（舗装工）積算要領

1. 適用範囲

本資料は、以下に示す I C Tによる舗装工（以下、舗装工（I C T））に適用する。

積算に当たっては、施工パッケージ型積算基準により行うこととする。

- ・不陸整正（I C T）
- ・下層路盤（車道・路肩部）（I C T）
- ・上層路盤（車道・路肩部）（I C T）

2. 機械経費

2－1 機械経費

舗装工（I C T）の積算で使用する I C T建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。

- （1）不陸整正（I C T）、下層路盤（車道・路肩部）（I C T）、上層路盤（車道・路肩部）（I C T）

I C T建設機械名	規 格	機械経費	備 考
モータグレーダ	土工用・排出ガス対策型（第二次基準値）・ブレード幅 3. 1 m	賃料にて計上	I C T建設機械経費加算額は別途計上

※賃料については、積算基準「〔1 一般土木〕県版 第2章 工事費の積算 ②直接工事費」により算定するものとする。

2－2 I C T建設機械経費加算額

I C T建設機械経費加算額は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用として、2－1 機械経費で示す I C T建設機械に適用する。

- （1）I C T建設機械経費加算額

49,000 円／日

2－3 その他

I C T建設機械経費等として、以下の各経費を、共通仮設費の技術管理費に計上する。

2－3－1 保守点検

I C T建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。

- （1）不陸整正（I C T）、下層路盤（車道・路肩部）（I C T）、上層路盤（車道・路肩部）（I C T）

$$\text{保守点検費} = \text{土木一般世話役(円)} \times 0.18(\text{人/日}) \times \frac{\text{施工数量(m2)} \times \text{層数}}{\text{作業日当り標準作業量(m2/日・層)}}$$

（注）作業日当り標準作業量は「積算基準〔1 一般土木〕県版 第I編 第14章その他④作業日当り標準作業量」の I C T標準作業量による。

２－３－２ システム初期費

ＩＣＴ施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。

- (１) 不陸整正（ＩＣＴ）、下層路盤（車道・路肩部）（ＩＣＴ）、上層路盤（車道・路肩部）（ＩＣＴ）

対象機械：モータグレーダ

623,000 円／式

３．３次元起工測量・３次元設計データの作成費用

監督員の指示に基づき、３次元起工測量、３次元設計データの作成を行う場合は、見積りの提出を受注者に求め、設計変更すること。

なお、見積り徴収にあたり別紙－４「ＩＣＴ活用工事の見積書の依頼について」を参考にするものとする。

４．３次元出来形管理・３次元データの納品費用、外注経費等の費用

(１) ３次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び３次元データ納品を行う場合における経費の計上方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。

- ・ 共通仮設費率補正係数 : 1.2
- ・ 現場管理費率補正係数 : 1.1

※小数点第３位四捨五入２位止め

なお、舗装工（ＩＣＴ）において、経費の計上が適用となる出来形管理は、以下の１）～３）又は完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理による出来形計測とし、それ以外のＩＣＴ活用工事（舗装工）実施要領に示された、出来形管理の経費は、補正係数を乗じない共通仮設費率及び現場管理費率に含まれる。

- １) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- ２) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- ３) 上記１) 又は２) に類似する、その他の３次元計測技術を用いた出来形管理

(２) 費用計上にあたっての留意事項

- １) ３次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び３次元データ納品を行う場合は、妥当性の確認を行うこととし、受注者からの見積りにより算出される金額が
(１) で算出される金額を下回る場合は、見積りにより算出される金額を積算計上額とする運用とする。
- ２) 受注者から見積りの提出がない場合は、３次元出来形管理・３次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。